

交通問題調査会「名古屋交通戦略2030」答申 会長総括

委員の皆様方、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、第15回名古屋市交通問題調査会に貴重なご意見をいただきありがとうございました。書面での開催となりましたが、委員の皆様方から多岐にわたるご意見をいただき大変感謝申し上げます。

令和元年7月「まちづくりと連携した新たな総合交通体系について」の諮問を受け、リニア中央新幹線の開業によるこの地域のポテンシャルを活かし、「地域公共交通政策」や「次世代の交通まちづくり政策」を推進する交通戦略を検討してきました。議論を進める中で、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、新たな生活様式が定着し、移動という概念を再認識しながら、答申に反映してきました。

また、自動運転社会を迎えるにあたり、今までの戦略の考え方にある公共交通の利便性を高め、車から公共交通に転換し、歩いて楽しいまちづくりを推進することの重要性を改めて感じました。

答申では、公共交通の利便性を高めるために、ガイドウェイバスへの自動運転技術の実装を契機に、需要の高い基幹的公共交通に自動運転技術を全国に先駆けて導入し、持続可能な公共交通ネットワークを形成すること、また、「みちまちづくり」の理念を継承し、道路空間・都市空間を車から人へ転換し、沿道・界限活性化による歩いて楽しいまちづくりを推進していくことを示しています。

さらに、高齢化の進展等、地域の特性に応じた交通課題の解決に向けて、新たな移動手段を導入していく視点も今後重要となります。これらを実践していくことで名古屋の魅力を高め、来る第20回アジア競技大会、リニア中央新幹線開業に向けて備えていくべきであると考えます。

自動車産業を中心としたモノづくりが発展してきたこの名古屋だからこそ、先進技術をフル活用して、誰もが快適に移動できる環境を実現することができるのではないのでしょうか。

「最先端モビリティ都市」として、公共交通ネットワークや都市空間という「既存ストック」と、自動運転技術などの「先進技術」を活用し、誰もが快適に移動できる、さらに、移動したくなる都市として、交通を軸に日本をリードする都市になることを期待しています。

今回のご意見をどのように反映させるか検討しましたが、部会での議論を踏まえた答申案を尊重させていただきます。今後、行政計画の策定に向けて検討を進める中で、皆様のご意見を反映した名古屋交通計画2030を策定していただきたいと考えます。

引き続き、交通問題調査会としても最先端モビリティ都市の実現に向けて推進してまいりますので、委員の皆様にも今後ともご協力お願いいたします。

名古屋市交通問題調査会
会長 森川 高行